「第10回日本補完代替医療学会学術集会」

11月3、4日に福岡で開催

代替医療の進歩・啓蒙へ

＝日本補完代替医療学会＝

講演やセミナーなど多彩に

「第10回日本補完代替医療学会学術集会」（主催／日本補完代替医療学会）が、11月3、4日の両日、福岡市の九州大学医学部百年講堂で開催される。

初日は、特別講演「話題の新興感染症」をはじめ、シンポジウムⅠ「慢性肝障害にどう対応するか、西洋医学の限界と東洋医学／サプリメントへの期待」、シンポジウムⅡ「生活習慣病の治療戦略・西洋医学の進歩とサプリメントの役割」が行われる。

また、ランチョンセミナー(1)「ブラジル産薬用植物タヒボとその素材含有成分〝NQ801〟の抗がん作用に迫る」や、一般演題、ポスター発表、さらに終了後には懇親会も予定されている。

2日目は、会長講演「感染症と生活習慣病」、シンポジウムⅢ「アトピー性皮膚炎の治療・総合医学的アプローチ」、セミナー「アガリクス・ブラゼイ・ムリル摂取におけるQuality of Life改善の評価」、ランチョンセミナー(2)「アガリクス・ブラゼイにおける安全性と有効性の評価」などが行われる予定。

さらに、市民公開講座として、第1部「コレステロール・血圧とうまく付き合うためには」、第2部「漢方・健康食品とうまく付き合うためには」などが行われる。

同学会は、代替医学領域における基礎的・臨床的研究の促進と情報の収集・交換を図り、代替医療の進歩・普及・発展に寄与することを目的に「代替医療研究会」として平成2年に発足。10年11月にはそれまでの8回の研究会を母体に第1回日本代替医療学会を開催する。そして12年に日本補完代替医療学会に学会名を変更した。

現在は、西洋医学領域において、科学的未検証の医学・医療に対して基礎的・臨床的研究を行い、その研究結果の意義を正しく評価し、現代医療体系の中に組み込んでいくことを目的とし、現代の西洋医学的医療を中核としている。

また、補完代替医療として挙げられる数々の医学的療法や薬効を持つ物質などについて、積極的に検証を行っている。

そのための主な活動として、▽学術講演会、研究会等の開催▽機関誌、学術図書等の刊行▽研究および調査の実施▽研究の奨励および研究業績の表彰▽生涯学習活動の推進▽関連学術団体・関連企業との交流会および提携――などを行っている。

問合わせ先は☎076―265―3900。

ヒト臨床試験開始へ

＝アガリクスの科学的検証始まる＝

11月5日に東京で発表

アガリクスに関する「発表会」（主催／金沢大学大学院医学系研究課臨床研究開発補完代替医療学講座、後援／日本補完代替医療学会）が、11月5日午後3時より東京都千代田区の東京国際フォーラムで開催される。

発表会では厚生労働省が「研究助成金を用いた、がんの代替療法の科学的検証と臨床応用に関する研究班・金沢大学大学院医学系研究課臨床研究開発補完代替医療講座特任准教授の大野智氏による「アガリクス・ブラゼイによるヒト臨床試験開始報告」が行われる予定。

また、このほか発表会では、NCI RapID Program アガリクス臨床開発責任研究官で同講座客員教授のInsu P・Lee氏による論文発表や、ハーバード大学医学部マサチューセッツ総合病院がんセンター効果調査センター長のJames A Tacott氏によるアガリクス・ブラゼイ・ムリルに関する研究結果などが発表される。

問い合わせは、☎03―3553―3401の日本補完代替医療学会東京事務所まで。

〝エビデンス〟でシンポ

問題点などを検証

11月6日に東京で開催

＝JMCA＝

NPO日本メディカルライター協会（JMCA＝東京都文京区、山本弘理事長）は、「食べ物を通じた健康情報・ニーズとエビデンスはなぜ一致しないのか？」（東京大学大学院医学系研究課公共健康医学専攻疫学保健学講座社会予防疫学分野教授、佐々木敏氏）、「特定保健用食品のヒト試験（臨床試験）の現状と問題点」（TTO代表取締役社長、山本弘理事長）、林健一氏）、「健康やQOLの改善を証明するにはどのような評価方法が求められるか？」（立命館大学理工学部教授、下妻晃二郎氏）が行われる。

また、講演終了後にはパネルディスカッションが予定されている。

Evidence-based medicinという言葉が広まり、健康関連の情報を伝達する際にはエビデンスを伝えることが重視されている。しかし、

点―」を、11月6日午後1時30分より東京都文京区の東京大学弥生講堂で開催する。

講演は、「食べ物を通じた健康情報・ニーズとエビデンスはなぜ一致しないのか？」（東京大学大学院医学系研究課公共健康医学専攻疫学保健学講座社会予防疫学分野教授、佐々木敏氏）、「特定保健用食品のヒト試験（臨床試験）の現状と問題点」（TTO代表取締役社長、山本弘理事長）、

〝くるみ〟コンテストを開く

技術力等を競う

Cクル ミ協会

カリフォルニアくるみ協会（日本代表事務所＝東京都港区、☎03―3505―5204）主催の「第18回カリフォルニアくるみ製菓・製パンコンテスト」の最終審査ならびに表彰式が東京都世田谷区の日本菓子専門学校で開催され、応募総数245作品の中からグランプリなどが選出された。

同コンテストは、カリフォルニアくるみを使用した作品で、和菓子の伝統的な手法をたくみに取り入れた繊細な作品。

金賞は、パン部門「ウォールナッツパノフィ」（大塚史夫氏）、洋菓子部門「ウォールナッツ」（関慎弥氏）、和菓子部門「石臼胡桃（横沼直人氏）などで、19作品が入選した。

今回からこれまでの「パン」と「洋菓子」に加えて「和菓子」を新設しており、より幅広い分野から〝くるみ〟の魅力を発掘することに努めたもの。

心の食材を揃える

有機和食店を

＝大地を守る会＝

チェーン店の2号店としてオープンする。

1号店は西麻布で稼働しているが、素材の安全性、質にこだわる同会の食材が食べられる店として評判が定着し、順調に売上げを伸